

WEALTH GROWTH 月間運用実績レポート

(2025年8月)

■ 8月のパフォーマンス

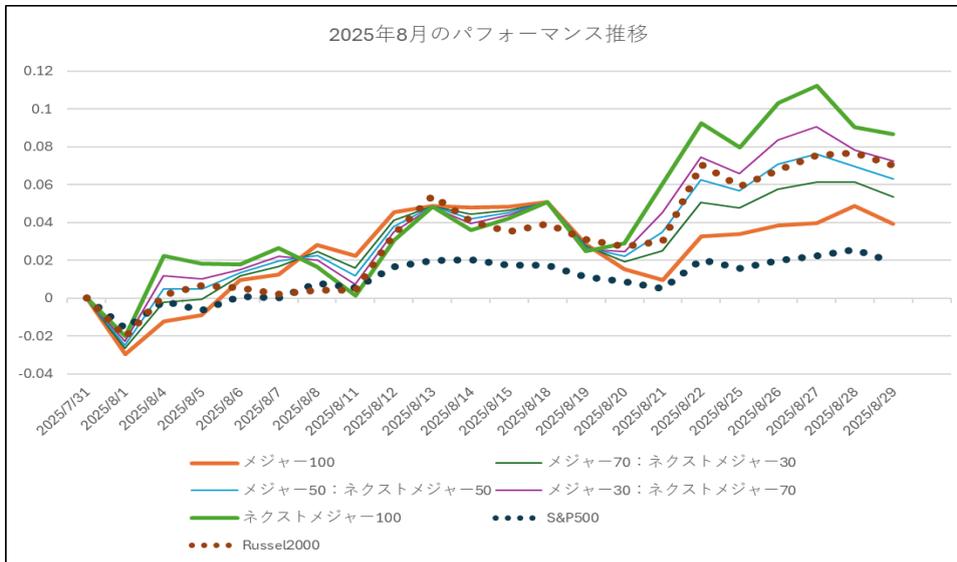
➤ ファンドの月間パフォーマンス

メジャー100	+3.94%
ネクストメジャー100	+8.64%

➤ 各指標の月間騰落率

S&P 500	+1.91%
Russel2000	+7.00%
NASDAQ	+1.58%
NY ダウ	+3.20%

➤ 運用コース毎のパフォーマンス



順位	戦略名	月間パフォーマンス	ベンチマーク	ベンチマーク比
1位	ネクストメジャー100	8.64%	Russel2000	1.64%
2位	メジャー30：ネクストメジャー70	7.23%	S&P500 (30%) Russel2000 (70%)	1.76%
3位	メジャー50：ネクストメジャー50	6.29%	S&P500 (50%) Russel2000 (50%)	1.84%
4位	メジャー70：ネクストメジャー30	5.35%	S&P500 (70%) Russel2000 (30%)	1.91%
5位	メジャー100	3.94%	S&P500	2.03%
	全戦略平均	6.29%		1.84%

※各指標のベンチマークについて

メジャー100のベンチマークはS&P500、ネクストメジャー100のベンチマークはRussel2000 合成戦略は保有比率でベンチマークを合成したもの

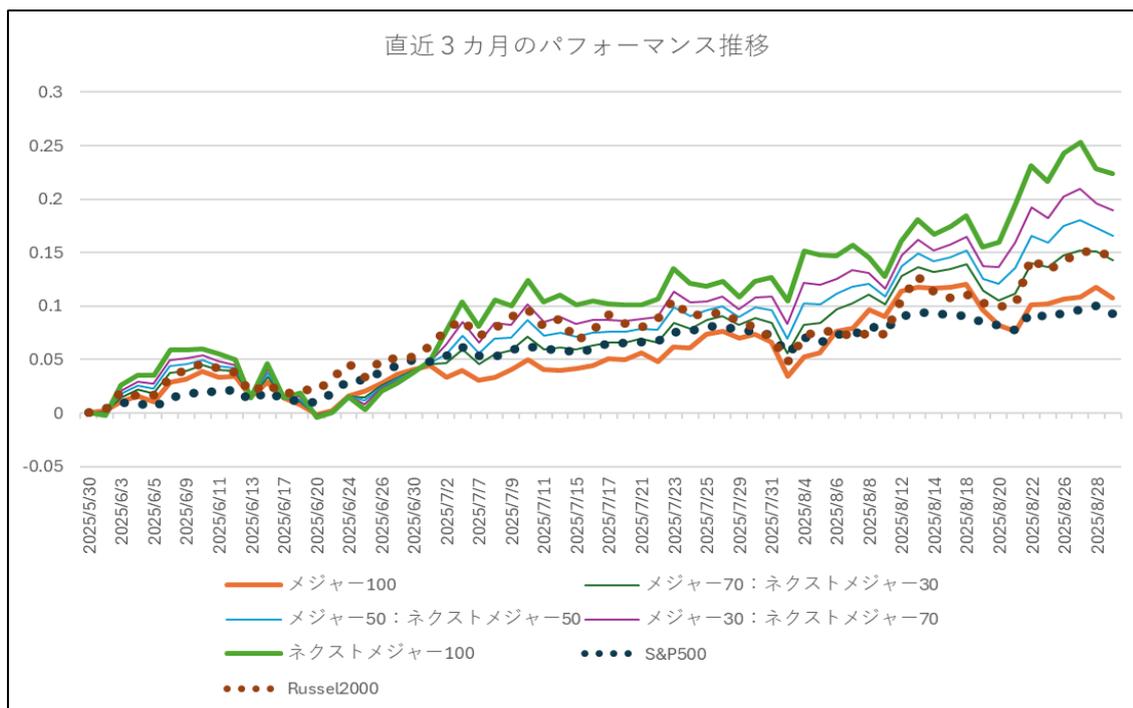
※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

Wealth Growth（ウェルスグロース）で最も月間成績が良かった戦略は、「ネクストメジャー 100」でした。月間で+8.64%、対ベンチマーク比では+1.64%となり、ベンチマークをアウトパフォーマンス！！

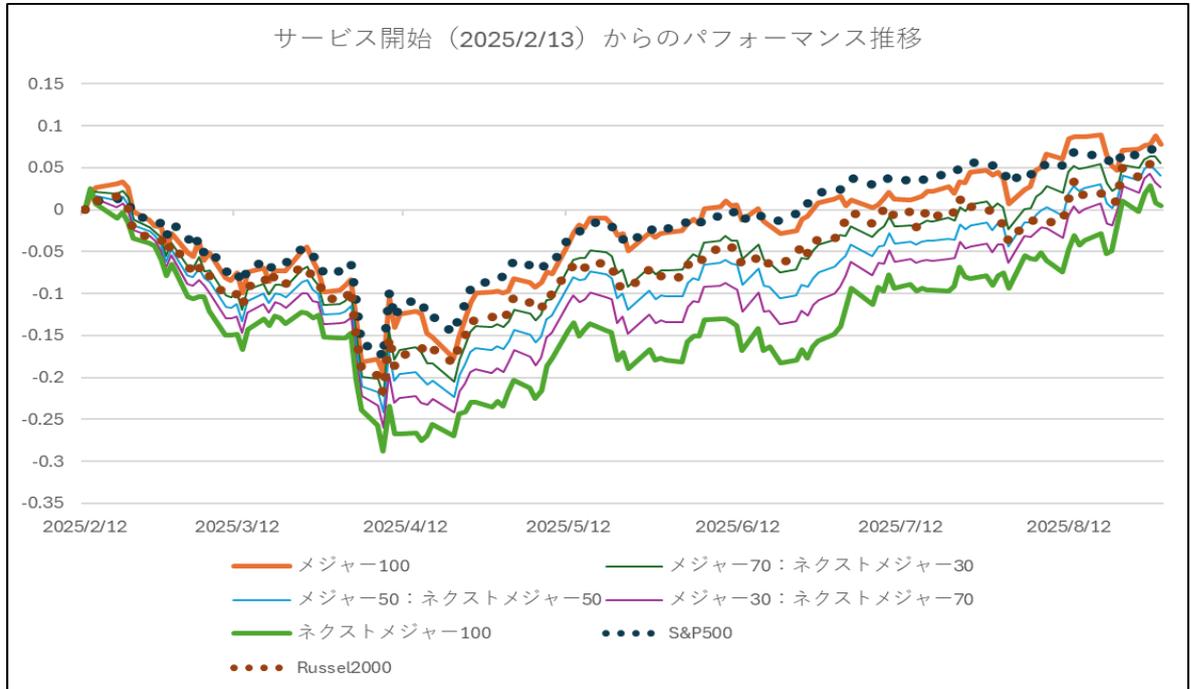
また、ベンチマーク比で最も月間成績が良かった戦略は、「メジャー100」でした。月間で+3.94%、対ベンチマーク比では+2.03%となり、ベンチマークを大幅にアウトパフォーマンス！！

➤ 過去3カ月のパフォーマンス推移グラフ



➤ 設定来のパフォーマンス推移グラフ

WealthGrowth（ウェルスグロース）の2025年2月13日（サービス開始）から2025年8月末までの運用実績です。



※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

➤ 設定来の騰落率

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来
メジャー100	3.94%	10.79%	10.99%	-	7.80%
ネクストメジャー100	8.64%	22.43%	7.51%	-	0.46%
S&P500	1.91%	9.28%	8.49%	-	6.75%
Russel2000	7.00%	14.60%	9.49%	-	5.10%

■ 8月の市況概況

➤ 米国市場

8月の米国市場は、FRBの金融政策とトランプ政権の政策動向が不安定な要因となりました。雇用統計の軟化で利下げ期待が高まった一方、CPI（消費者物価指数）やPPI（生産者物価指数）の上振れがインフレ警戒感を維持させ、市場はFRBの慎重な姿勢を見極める展開となりました。一方、トランプ氏によるFRBへの介入なども不確実性を高め、AI関連への投資は堅調で一部ハイテク企業が市場を牽引しましたが、全体の地合いは不安定となりました。

・第1週（8月1日）：雇用統計ショックと利下げ観測の急浮上

（ダウ平均：△1.23 % S&P 500：△1.60 % NASDAQ：△2.24 %）

7月の米非農業部門雇用者数が市場予想を大幅に下回り、過去2ヶ月分も下方修正されたことで、市場に「雇用統計ショック」が走りました。これを受け、ダウ、NASDAQ、S&P 500の主要3指数は下落し、9月の利下げ観測が急速に高まりました。トランプ前大統領はFRBのパウエル議長を「負け犬」と非難し、利下げ圧力を強めました。

・第2週（8月4日～8日）：利下げ期待の定着とトランプ政権のFRB介入

（ダウ平均：+1.35 % S&P 500：+2.43 % NASDAQ：+3.87 %）

前週の雇用統計ショックを受け、市場では9月の0.25%利下げ確率が約80%まで上昇し、元FRB総裁のブラード氏が年内2回の利下げを主張するなど、利下げ観測が定着しました。FRBのクグラー理事の突然の辞任意向と、トランプ大統領による労働統計局長解任要求、そしてFRB人事への介入示唆が、金融政策の独立性への懸念を高めました。AI大手4社の設備投資額が前年比68%増と成長を牽引しS&P500のPERが高止まりするなど好材料もあり、さらに、一時的な買い戻しで指数は反発しましたが、もっぱらFRBへの政治的圧力が市場の注目を集めました。

・第3週（8月11日～8月15日）：インフレ再燃となるも市場最高値更新

（ダウ平均 +1.74 % S&P 500：+0.94 % NASDAQ：+0.81 %）

米国株式市場は利下げ期待を背景にダウ、NASDAQ、S&P500が続伸し、特にS&P500とNASDAQは連日最高値を更新しました。ベッセント財務長官が9月のFOMCでの0.5ポイント利下げの必要性を示唆し、市場は9月利下げを100%織り込みました。NVIDIAはAI半導体H200の対中輸出再開の見返りに売上の一部を米政府に支払うことで合意し、フォードは低価格EV投入を発表するなど好材料もありましたが、7月のPPI（生産者物価指数）が市場予想を大幅に上回り約3年ぶりの高い伸び率を記録し、インフレ再燃懸念も高まりました。

・第4週（8月18日～8月22日）：ジャクソンホール会議での利下げ示唆と市場の複雑な反応

（ダウ平均：+1.53 % S&P 500：+0.27% NASDAQ：△0.58%）

ジャクソンホール会議が開催され、パウエルFRB議長が「雇用の下振れリスクが上昇している」と政策スタンス調整の可能性に言及し、利下げの必要性を強く示唆しました。これを受けNYダウは8ヶ月ぶりの高値更新。しかし、ハイテク株に利益確定売りが入り、また、ウォルマートの決算が市場予想を下回り株価が大幅下落するなど、指数は不安定な値動きとなりました。トランプ大統領はFRBのクック理事に辞任を要求し、金融政策の独立性への懸念が再燃しましたが、市場は9月の利下げを織り込みつつ、個別材料に反応しましたが、8月の製造業PMIは3年3ヶ月ぶり高水準を記録し、販売価格の上昇が再びインフレ圧力を示唆しました。

・第5週（8月25日～8月29日）：ハイテク株の調整とFRBの独立性への圧力

（ダウ平均：△0.19 % S&P 500：△0.10% NASDAQ：△0.19%）

7月のPCE（個人消費支出物価指数）は市場予想と一致しましたが、コアPCEの強さが継続し、サービス部門が牽引する形でインフレ圧力の根強さが示唆されました。トランプ大統領はFRBクック理事の解任騒動を巡り、FRBの独立性に対する政治的圧力を強め、連邦地裁が審理を開始する異例の事態となりました。消費者信頼感指数は下方修正さ

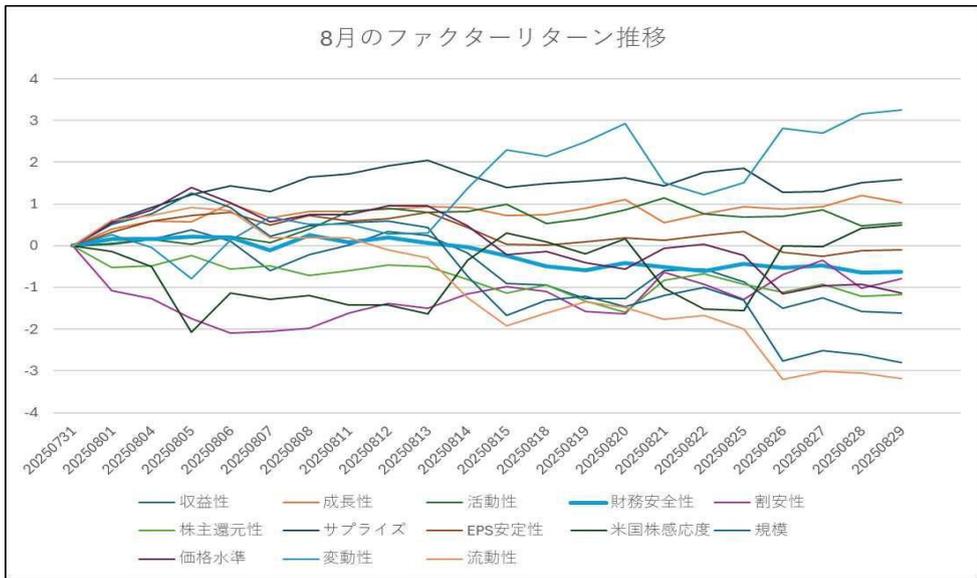
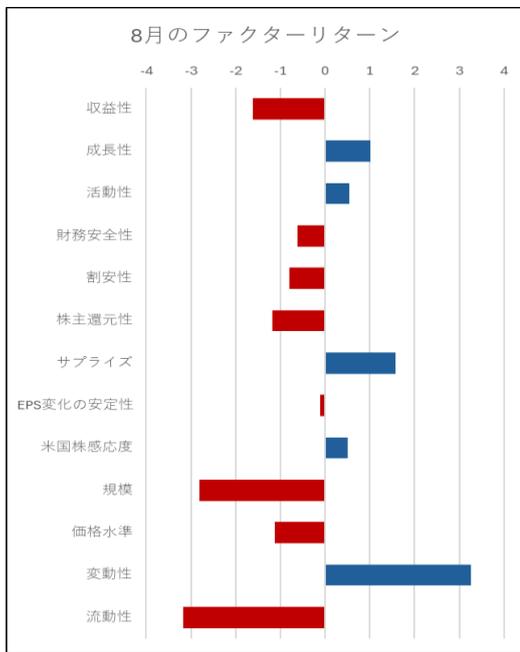
れ、カナダ GDP のマイナス成長や中国 PMI の不振も世界経済の減速懸念を強めました。さらに、中国アリババの AI 半導体開発報道やデルの AI 向けサーバー受注伸び悩みが NVIDIA などの半導体株を押し下げ、ハイテク株に利益確定売りが広がり、週末の主要 3 指数は 4 日ぶりに反落しました。

■ 月間パフォーマンスの背景

➤ ファクター動向

8月は、低位小型のハイリスク好業績銘柄が堅調となりました。

ファクターリターンの推移を見ても、変動性ファクター・サプライズファクター・成長性ファクター・活動性ファクター・米国株感応度ファクターがプラスとなる一方、株価水準ファクター・規模ファクターが大きくマイナスとなり、これまで米国市場を牽引していた大型テック銘柄が調整するも、利下げ期待に支えられるなか、7月に続きハイリスクの低位小型株が選好され、その中でも特に 8月は好業績銘柄へ資金が向かったことがみて取れます。

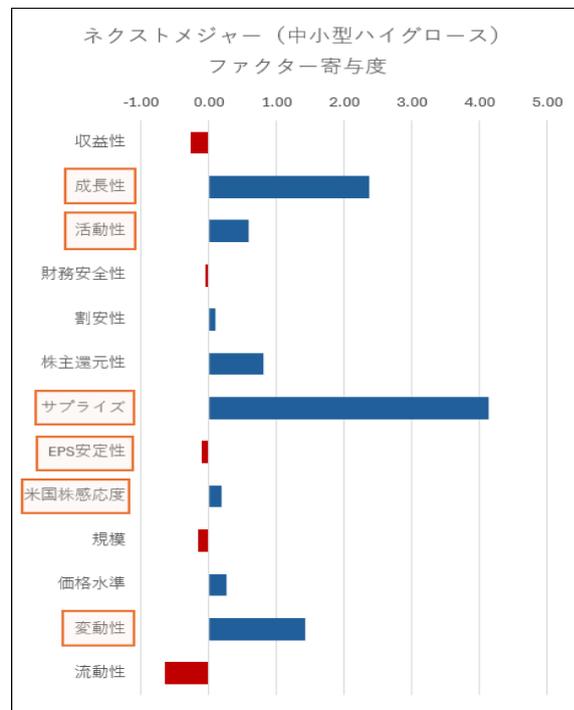
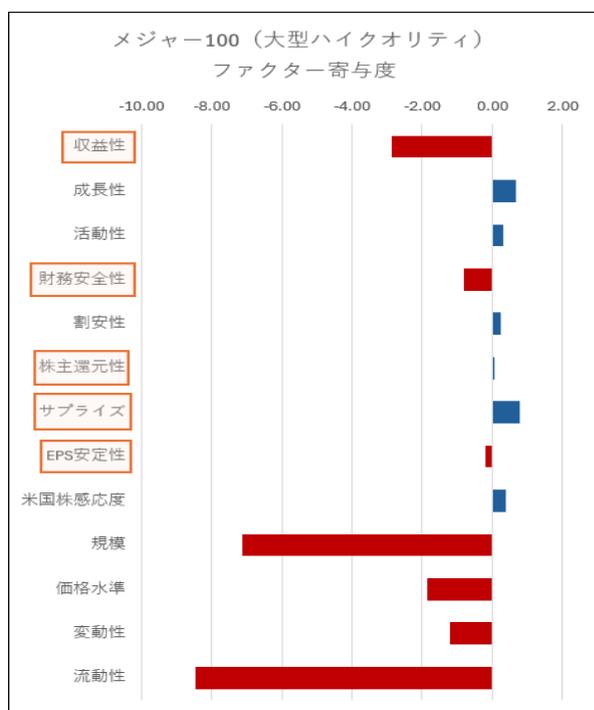


➤ ファクター寄与度

その様な市況環境のなか、その様な市況環境のなか、Wealth Growth（ウェルスグロース）がご提供している全ての戦略がプラスとなり、全戦略がベンチマークを大幅にアウトパフォームする結果となりました。

メジャー100（大型ハイクオリティ）がS&P500をアウトパフォームした要因は、メジャー100の特徴であるハイクオリティ特性「高財務安全性・高EPS安定性・高収益性」が8月もマイナスに寄与した一方、市場平均よりもオーバーウエートしているサプライズファクター及び成長性ファクターがプラスに寄与しマイナス要素をカバーしたことによります。

ネクストメジャー100（中小型ハイグロース）がRussel2000をアウトパフォームした要因は、ネクストメジャー100ポートフォリオの特徴であるハイ・グロース特性のなかの「好業績（=ポジティブ・サプライズ）、高成長、高価格変動（=ハイリスク）、高活動性、高米国株感応度（=ハイベータ）」が大きくプラスに寄与したことです。また、利下げ期待から低位小型株が市場全体でも選好されたことでポートフォリオ全体のプラス幅も大きくなりました。



➤ 個別銘柄寄与度

メジャー（大型ハイクオリティ）

寄与度上位5銘柄

No	Tiker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	AAPL	APPLE.INC	9.70%	1.43%
	<p>アップル社は、カリフォルニア州クパチーノに本社を置く、アメリカ合衆国の多国籍テクノロジー企業であり、消費者向け電子機器、コンピュータソフトウェア、オンラインサービスを設計、開発、販売しています。アマゾン、グーグル、マイクロソフトと共に、四大テクノロジー企業の一つとされています。同社の堅調な決算報告書と将来の投資計画は、同社が継続的な成長のために好位置にあると見られています。</p>			
2	GOOGL	ALPHABETINC-A	10.50%	1.27%
	<p>アルファベット社は、ソフトウェア、ヘルスケア、輸送、その他のテクノロジー事業を展開する持株会社です。カリフォルニア州マウンテンビューに本社を置き、現在 187,103人の正社員を雇用しています。同社のAI 主導の強い収益増加と主要なクラウド取引は、AI セクターにおける堅調な成長軌道を示唆していると考えられています。</p>			
3	DECK	DECKERS OUTDOOR	4.30%	1.09%
	<p>デッカーズ・アウトドア社は、日常のカジュアルなライフスタイルと高性能なアクティビティの両方に対応したフットウェア、アパレル、アクセサリーのデザイン、マーケティング、および販売を行っています。本社はカリフォルニア州ゴletaにあり、現在 5,500人の正社員を雇用しています。HOKAとUGGといった主力ブランドの強さが、国内および国際的な成長を牽引しています。</p>			
4	UAL	UNITED AIRLINES	4.70%	0.79%
	<p>ユナイテッド・エアラインズ・ホールディングス社は、輸送サービスを提供するホールディングカンパニーです。本社はイリノイ州シカゴにあり、現在 11 万 1300人の正社員を雇用しています。航空運賃の上昇と燃料費の低下などによって、投資家のセンチメントを支える要因もあり、堅調な推移を見せています。</p>			
5	ANET	ARISTA NETWORKS	3.60%	0.61%
	<p>アリストネットワークス社は、クラウドネットワーキングソリューションの開発、マーケティング、販売を行っています。本社はカリフォルニア州サンタクララにあり、現在 4,412人の正社員が勤務しています。同社のクラウドコンピューティングと AI 主導のネットワーキングへの焦点は、将来の成長にとって有利に働くと考えられています。</p>			

ネクストメジャー（中小型ハイグロース）

寄与度上位5銘柄

No	Tiker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	XERS	XERIS PHARMACEU	9.90%	4.42%
	<p>ゼリス・バイオフาร์ม・ホールディングス社は、幅広い治療法にわたる製品の開発と商業化に従事するバイオ医薬品会社です。本社はイリノイ州シカゴにあり、現在 394人の正社員を雇用しています。主要製品ラインの売上高と成長において過去最高の収益を上げ、近四半期に強力な財務実績を示しました。最近の Recorlev 特許付与、売上高見通しの引き上げ、アナリストのポジティブな評価など、様々なポジティブな展開によって、同社のポジティブな財務見通しが裏付けられています。</p>			
2	CRMD	CORMEDIX INC	10.30%	2.52%
	<p>コーメディックス社は、疾患や病状の予防と治療のための治療製品の開発と商業化に従事する医薬品および医療機器会社です。本社はニュージャージー州バークリーハイツにあり、現在 64人の正社員を雇用しています。2025 年第 2 四半期の好調な業績、戦略的買収、アナリストのポジティブなレーティングなど、ここ数週間でポジティブな展開を見せています。</p>			
3	RELY	REMITLY GLOBAL	9.10%	1.64%
	<p>リミットリー・グローバル社は、移民とその家族向けにデジタル金融サービスを提供しています。本社はワシントン州シアトルにあり、現在 2800人の正社員を雇用しています。好調な決算を発表し、ここ数週間はアナリストからの評価も肯定的に見られています。</p>			
4	SLQT	SELECTQUOTE INC	6.20%	1.63%
	<p>セレクトクオート社は、保険証券と医療サービスの提供を行う持株会社として運営されています。同社の本社はカンザス州オーバーランドパークにあり、現在 1,181人の正社員を雇用しています。好調な財務実績やアナリストの楽観的な見通しなどのポジティブな展開が見られています。</p>			
5	ALHC	ALIGNMENT HEALTH	3.20%	1.07%
	<p>アラインメント・ヘルスケア社は、メディケア・アドバンテージプランを通じて、高齢者や慢性疾患を抱える脆弱な方々など、最も必要とする方々にカスタマイズされたヘルスケアソリューションを提供する消費者中心のプラットフォームを提供する持株会社です。本社はカリフォルニア州オレンジにあり、現在 1,679人のフルタイム従業員を雇用しています。ここ数週間、堅調な財務実績と好ましい展開を見せています。同社の第 2 四半期決算は、会員数の急速な増加とコスト効率の向上によって予想を上回りました。さらに、CEO の表彰と主要業界イベントへの参加は、継続的な勢いと将来の成長の可能性を見せています。</p>			

■ Wealth Growth 戦略の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、S&P500を凌駕するパフォーマンスを目指します

2. 戦略の特色

特色1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います

特色2：ニューヨーク証券取引所及びNASDAQに上場する約5,000銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します

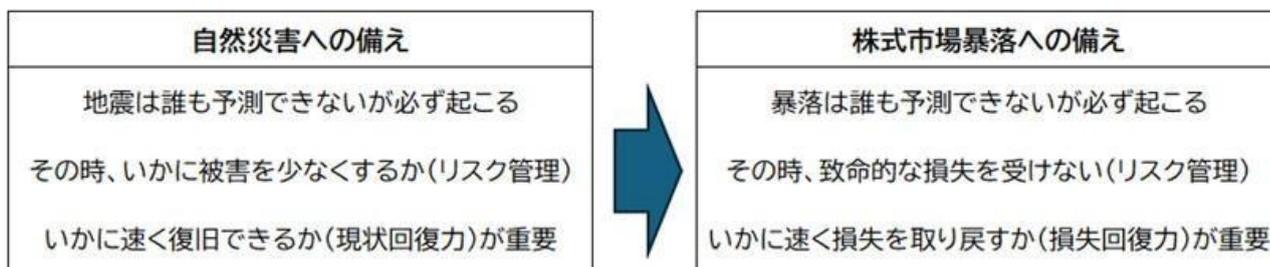
特色3：銘柄選択において、大型株（Major）では「高収益性」「高EPS安定性」「高財務安全性」「高株主還元性（=高配当）」「高サプライズ（=好業績）」によるハイ・クオリティ特性のモデルを活用、中小型株（Next Major）では「高成長性」「高活動性（=高い総資本回転率）」「高サプライズ（=好業績）」「高米国株感応度（=ハイベータ）」によるハイ・グロース特性のモデルを活用します。

特色4：組入れ銘柄数は20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクはS&P500±10%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

・Wealth Growth（ウェルス グロース）のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていれば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

ソルティノ・レシオの最大化のために、AIにファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。計算式は、年率換算リターン／年率換算下方リスク。

① 大型株（Major）

「高収益」×「EPS安定」×「財務健全」×「高配当」×「好業績」といった、

ハイ・クオリティ特性あるファクターを選択し、本質的に価値の高いハイ・クオリティ銘柄群に投資します。

② 中小型株 (Next Major)

「高成長」×「高活動」×「好業績」×「ハイベータ」といった、

ハイ・グロス特性あるファクターを選択し、成長性の高いハイ・グロス銘柄群に投資します。

4. ファクターの説明

Wealth Growth (ウェルス グロース) は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	活動性	総資本回転率、等
4	財務安全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
5	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	サプライズ	経常利益修正率、等
8	EPS安定性	1年EPS変化の安定性、等
9	米国株感応度	米国株感応度60日間、等
10	規模	上場時価総額、等
11	価格水準	株価、等
12	騰落率	60日騰落率、等
13	変動性	ヒストリカルボラティリティ60日、等
14	流動性	売買代金20日平均、等

5. リスク管理

Wealth Growth (ウェルス グロース) は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄としています
- ② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています、
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています。
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています。

以上

※本レポートは、2025 年 9 月 2 日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Jトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

<業務内容について>

Jトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Jトラストグローバル証券株式会社】

- 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- 入出金に係る手続き
- 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

<手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要コストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

<投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて>

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があります。本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

<p>[投資一任契約の媒介業者]</p>  <p>株式会社スマートプラス 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 加入協会/ 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会</p>	<p>[口座管理機関]</p>  <p>株式会社スマートプラス 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号 加入協会/ 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会</p>
--	---